

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病害虫防除所長  
(公印省略)

令和元年度病害虫発生予察特殊報第1号の発表について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

令和元年度 香川県病害虫発生予察特殊報 第1号

1. 病害虫名： ツマジロクサヨトウ  
学名 *Spodoptera frugiperda*(J. E. Smith)

2. 発生地域： 高松市、坂出市

### 3. 発生経過

侵入警戒のため、農林水産省神戸植物防疫所が高松市と坂出市に設置しているフェロモントラップにおいて、令和元年10月25日、高松市では雄2頭、坂出市では雄1頭の本種疑義成虫が確認された。

神戸植物防疫所が確認したところ、10月29日に本県未発生のツマジロクサヨトウであることが確認された。なお、県内では現在、農作物における本種幼虫の発生および被害は確認されていない。

本種は、本年7月3日に鹿児島県の飼料用トウモロコシほ場において国内で初めて確認され、その後、熊本県、宮崎県、長崎県、沖縄県、大分県、佐賀県、高知県、茨城県、岡山県、福岡県、千葉県、山口県、愛媛県、福島県、神奈川県、三重県、広島県、大阪府、青森県の20府県で現地ほ場での発生が確認されている。このほか、徳島県、兵庫県、愛知県、島根県、和歌山県でもフェロモントラップにおいて雄成虫が誘殺され、特殊報が発表されている。

### 4. 本種の特徴

#### 1) 形態

成虫は、開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみ前翅中央部に黄色い斜めの斑紋を持つ(図1)。終齢幼虫は体長約40mmで頭部の複眼と前額の境界に淡色の逆Y字状の模様及び尾部の黒色斑点が特徴である(図2)。卵は、寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。

#### 2) 生態

南北アメリカ大陸の熱帯から亜熱帯を原産とする南方系の害虫であり、暖地に適応する。熱帯では年4～6世代発生する。南北アメリカでは、毎年夏季に成虫が移動・分散し生息域を拡大するが、暖地を除く地域では越冬することができない。

#### 3) 被害

幼虫が植物の茎、葉、花及び果実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。新葉の葉鞘部を多く食害し、加害部には多量の糞が散在する。

#### 4) 寄主植物

文献では、トウモロコシやイネなどのイネ科植物のほか、アブラナ科、ナス科、ウリ科、キク科、ナデシコ科、ヒルガオ科、マメ科など幅広い作物を加害するといわれている。なお、これまでのところ、国内の農作物では飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガム、サトウキビで発生が確認されている。

#### 5. 注意事項等

- 1) 生育初期に幼虫の食害を受けた場合、被害が大きくなると考えられるため、ほ場巡回を行い早期発見に努める。
- 2) 本虫と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに病害虫防除所に連絡する。
- 3) 県は、本虫による加害が確認された場合、植物防疫法第29条第1項に基づく措置を行うこととし、国との協議により、加害が確認された作物ごとに選定した薬剤による散布の指導を行う。



図1 成虫（左：雄，右：雌 開長：約37mm）農林水産省 HP より



図2 終齢幼虫（体長：約40mm）農林水産省 HP より

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <http://www.jppn.ne.jp/kagawa/>